

第2回 選挙区及び定数に関する在り方調査会 概要

日 時：令和元年11月14日（木）16時00分～18時00分
場 所：都道府県会館4階407会議室（東京都千代田区平河町2-6-3）
出席委員：（6名）金井利之座長、岩崎美紀子委員、大橋正春委員、加藤一彦委員、谷口尚子委員、原田大樹委員
出席者：北川裕之副議長、（事務局）湯浅真子事務局長、畑中一宝次長、枡屋武企画法務課長、袖岡静馬政策法務監、長谷川智史主任、川合将之主任
傍聴者：9名

1 会議運営等について

調査会での発言の方法について、原則として挙手をした上で、座長の指名を受けた後に発言することが確認された。

会議録の作成等について、委員名を表記した詳細な会議録を作成し、委員の確認を経た後に、三重県議会のホームページに掲載することが確認された。

会議の録音データの取扱いについて、議会ホームページへの掲載は行わないことが決定された。

2 現地調査について

現地調査については、12月1日（日）から12月2日（月）までの一泊二日の行程で実施することが決定された。

また、現地調査の内容についてまとめた報告書を作成すること、調査については原則非公開とし、冒頭の頭撮りのみ認める場合があることが決定された。

なお、現地調査の具体的な行程について、事務局から度会郡選挙区内、多気郡選挙区内、尾鷲市・北牟婁郡選挙区内で調査を行う方向で調整中であること等を報告した。委員からは、最南部の選挙区である熊野市・南牟婁郡選挙区での調査や北部地域での調査も重要ではないかとの意見があり、今後、座長と事務局において調整することとされた。

3 調査

「人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について」の論点整理について

はじめに事務局から、前回の調査会において追加提出の求めがあった事項等（近年の議員定数等に関する条例案の賛否状況や無投票選挙区の状況等）に関する資料の説明を行ったのち、「人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について」の論点整理について、協議が行われた。

委員からは、主に次のような趣旨の発言があった。

- ・人口減少が進み市町の行政基盤がぜい弱になってくると、県が基礎自治体を補完するモデルというものもあり得る。そうした場合には、県議会に代表されるべき民意が従来と異なってくる可能性があることも考えていく必要があるのではないか。
- ・広域自治体の議会としての在り方という視点が必要と考える。広域自治体としての県と基礎自治体としての市町との関係性についての議論が必要ではないか。
- ・南部地域の活性化などに取り組む中において、その地域において選出される議員がいることがどこまで重要であるのか、議員の持っている役割というのは他の措置で代替することが可能なのかという議論が必要ではないか。
- ・政治的参加としての平等性と社会的帰結としての平等性は異なるところがあると考え。そのどちらが正しいか決めることは難しいが、それぞれに対する考え方を示すことはできるのではないか。
- ・無投票選挙の状況を踏まえつつ、議員のなり手不足や競争性の低さという観点から、議員の代表性や選挙の実効性についても検討してはどうか。
- ・議会の在り方について議論する前提として、現在議会がどのような役割、機能を果たしているのか整理する必要があるのではないか。
- ・県への陳情等を行う場合に、県議会議員を利用しているのか、ほかのルートを利用しているのか、その実態を検証してはどうか。地元選出の県議会議員をどのように見ているのか、検証する必要があるのではないか。

4 その他

次回の調査会については、12月9日（月）14時から都道府県会館で開催する予定であることが報告された。